

ICU入室患者におけるせん妄予防の検討

救急部・集中治療部

○ 壬生 季代 高橋 由美 川崎 一起 麻植 美佐子
山下 幸一

【はじめに】

心臓血管術後患者を対象とした先行研究ではJ-NCSがせん妄発症の予測に有用であり、音楽療法がせん妄予防に有効であることを報告した。今回入室全症例で、予防効果・発症予測因子を検討したので報告する。

【方法】

入室患者 56 例（男性 45 例、女性 11 例、年齢 68 ± 10 歳、心臓血管外科手術 24 例、腹部手術 32 例）を対象とし、音楽療法を施行。術前情報、バイタルサイン、J-NCS、BIS 値等をせん妄発症群と非発症群で検討。

【結果】

せん妄は 6 例（11%）で発症、音楽療法をしなかった心臓血管術後症例（47%）より有意に少なく、音楽療法をした心臓血管術後症例と同等に入室全症例での検討でも有意であった（ $p < 0.01$ ）。せん妄発症群では、J-NCS が有意に低く（ 21.5 ± 9.1 vs. 29.1 ± 1.8 、 $p < 0.01$ ）、挿管時間（分）（ 3527 ± 3258 vs. 1154 ± 691 、 $p < 0.01$ ）、在室日数（ 4.0 ± 2.1 vs. 2.3 ± 0.7 、 $p < 0.01$ ）は有意に長かった。

【結語】

音楽療法は ICU 入室症例におけるせん妄予防に有用であり、低 J-NCS 値、挿管時間、在室日数はせん妄の発症のリスクとなる。

〔平成 20 年 2 月 14～16 日 第 35 回日本集中治療医学会学術集会（東京）にて発表〕